

# どう演じるか とても楽しみ

ひと

女優  
かとうかず子さん



かとうかず子

近松門左衛門の功績を顕彰し、次代の劇作家を発掘・育成するために本市が設けている現代演劇の戯曲賞「近松門左衛門賞」。第2回受賞作品「元禄光琳模様」は江戸時代の元禄期に生きた絵師・尾形光琳の物語。今回は来年1月18日～21日にピッコロシアターで上演される「元禄光琳模様」の作者・保戸田時子さんに尾形光琳の妻・多代を演じる女優かとうかず子さんのお話を聞きいただきました。

**保戸田** かとうさんは、現代的な方と想像していたのですが、前に着物姿で舞台に出演されているのを見て、ちょっとイメージが変わったということがありまして、演出の宮田慶子さんから多代役は、かとうさんという話を聞いてこれはぴったりだと思いました。

**かとう** でも、今の世の中には多代のような女性はいませんよね。また、光琳のような男性も今はないと思います。

**保戸田** その一方で、近松作品はすごく現代性がありますよね。「女殺油地獄」という作品では、不良少年みたいなのがお金に困って近所の奥さんを殺してしまうわけですが、今、現実にある話じゃないですか。

**かとう** 確かに時代的には今と似ているところがありますね。実はわたし、大学で近松を勉強していたことがあるんですが、そのころ授業で読んでいたのと今とでは読み取り方が違います。20代の時と今とでは、近松ものの良さの受け取り方が違うので、今回このお芝居にかかわるのは「もう一度読んでみたら」というチャンスかと思いました。だから、最初に台本を読ませていただいた印象にとどまらず、もっとやってみると違うことがたくさん出てくるんじゃないかなと思っています。

**保戸田** このお芝居で、かとうさんがどういう多代さんを演じてくださるのか楽しみです。

**かとう** ありきたりでない、「いい奥さんだったね」じゃないというところが出せればいいかなと思います。

**保戸田** そういったところを、ぜひたくさんの人にご覧いただきたいですね。

**かとう** お芝居というのは来て見てもらわないと始まらないんですよ。来ていただくまでのお誘いが難しいのですが、実際に見てみると面白かったということは口コミで広がります。各地にいろんな劇場がありますが、あそこへ行けば新しく面白いのが見られるという劇場が増えればうれしいですね。劇場のテーマがその地域に合っているということが大切です。

**保戸田** そうした地域密着型の劇場づくりのためにも、たくさんの人にこの「元禄光琳模様」を見ていただきたいですね。

**かとう** わたしもどう演じていくか、とても楽しみにしています。



保戸田時子さん

## かとうさんと保戸田さんのサイン入り冊子をプレゼント

第2回近松賞の受賞作品「元禄光琳模様」の冊子を抽選で5人に差し上げます。7月10日(必着)までにはがき(1人1枚)に住所・氏名・電話番号を書いて市役所広報課「冊子」係(〒660-8501【住所不要】☎6489-6021)へ。

応募多数の場合は抽選。当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

profile

### かとうかず子

愛知県生まれ。1979年に舞台「広島に原爆を落とす日」のヒロインとしてデビュー。1982年、映画「なんとなくクリスタル」で日本アカデミー賞新人俳優賞を受賞。現在、テレビ・映画・舞台など幅広い分野で活躍している

### 保戸田時子(ほどだ・ときこ)

東京都生まれ。青山学院大学文学部英米文学科卒業。1986年「黒髪」で文化庁舞台芸術創作奨励賞佳作をはじめ、1998年「山の架け橋」で北海道の戯曲賞佳作を受賞している